

ごあいさつ

～ DNA鑑定が「技法」を超えて「学問」へ～

特定非営利活動法人「DNA鑑定学会」は、お陰様で設立から10年を迎えることができました。これは、ひとえに会員の皆様、そして評議員などの役員の方々と事務局の皆様の献身的なご努力のお陰であります。ここに、理事長として心から感謝申し上げます。

特に、この度は本学会の学会誌であります「DNA鑑定」が発刊以来Vol.10を迎えるという事で、日頃から本学会誌の発展に寄与していただいている様々な皆様に、お礼を申し上げます。この学会誌は、DNA鑑定に関する幅広い秀逸な学术论文とレビュー論文そして公開したいプロトコルなどを載せており、日頃より高い評価を受けております。一方、そのような立派な学会誌ではありますが、読者数や読者層をさらに広げてもっと多くの方々に読んでいただきたいという切なる思いがあります。

ご存知のように、司法の方とりわけ殺人事件などの刑事事件においては、DNA鑑定はなくてはならない存在になりました。その分、実験手法のプロトコルなどキッチリ決まっていて、なかなか研究開発の余地が全くないように思っておられる方々も多いことを知っております。

しかしながら、ヒトに関しても、実験手法がもうすぐアイデンティファイラーからグローバルアイデンティファイラーに変わっていき、調べる在位の数も16から22に増えます。アレルをコールする閾値も当然ながら変わってきます。おそらく、どうサンプルを採取し、どのように取り扱われて保管されたかなども、今以上に厳しく議論されるものと思います。

そういう中で、STRを基礎としたDNA鑑定からゲノム配列に基づいたDNA鑑定を志向する動きが米国などを中心に活発化しております。

微小な試料からどうDNAを抽出してDNA鑑定にもっていくか、複数人が関与したと思われる混合試料はどうDNA鑑定するのかといった、いわゆる「DNA鑑定の2大課題」（微小試料と混合試料）を根本的に解決すべき研究課題が待ち受けております。

本学会が掲げる趣旨を見ていただければすぐ分かるように、DNA鑑定はヒトだけでなく、農産物や水産物など他の生物の種同定や品種判別も含みますので、その研究開発をすべき対象は非常に広範囲なものになります。

さらに、健康医療に関することも、例えば疾病診断のDNAマーカーの同定なども、「DNA Typing」という範疇に入ってしまうので、「DNA鑑定」として扱うことも可能となります。

したがって、DNA鑑定の実際的な技術面(技法)はもちろんのこと、学問としてのあるいは研究開発すべき分野としての「DNA鑑定学」を目指していくことが重要と考えます。

「DNA鑑定って、学問なの？」と質問する人達には堂々と答えたいと思います、「DNA鑑定学という立派な学問だよ！」と。

どうか今後とも、DNA鑑定学会をどうかよろしくお願い致します。皆さんとともに、是非ともDNA鑑定をさらに発展させていきたいと思っております。

特定非営利活動法人DNA鑑定学会
理事長 五 條 堀 孝

2018年9月吉日

目次

【抄録】 DNA品種識別技術の開発支援による育成者権侵害対策の強化……………	1
— 認定NPO法人DNA鑑定学会の取組—	
矢野 博	
【総説】 DNA品種識別のためのソフトウェアとウンシュウミカンの起源の解明への応用……………	19
Software for cultivar identification by DNA makers and origin of satsuma mandarin	
藤井 浩	
【原著論文】 Distinction between non-native and Japanese native cyprinid fishes based on……………	31
mitochondrial 16S ribosomal RNA gene regions	
正岡 哲治	
【原著論文】 マイクロサテライトDNA分析により推測されたクサカリツボダイの集団構造……………	43
Genetic population structure of pelagic armorhead (Pentaceros wheeleri) in the North	
Pacific inferred by microsatellite DNA analysis.	
柳本 卓	
【原著論文】 Habitat of a native freshwater shrimp <i>Paratya improvisa</i> in Iruma River system in……………	51
Saitama Prefecture and the invasion status of alien species, <i>Neocaridina</i> spp.	
石黒 直哉	
【短報】 2017年に羅臼沖で混獲されたオオグチボヤ様生物のDNA種判別……………	59
Molecular species identification of a kind of Octacnemidae collected by	
bottom gill net off Rausu in 2017	
柳本 卓	
【短報】 南太平洋で漁獲されたヒレジロマンザイウオから出現した寄生虫のDNA分析による種判別……………	65
Molecular species identification of parasite appeared from muscle of Sickle	
pomfret <i>Taractichthys steindachneri</i> collected in the South Pacific Ocean	
柳本 卓	
【短報】 SmartExtractionが導くDNA精製の新境地……………	71
SmartExtraction: an innovative genomic DNA extraction technology	
渡邊 荘子	
【短報】 小型次世代シーケンサーiSeq™100システムのリリースと対応アプリケーションのご紹介……………	75
Introduction of newly released iSeq™100 system; Illumina's smallest benchtop NGS and	
its applications.	
小林 孝史	
【短報】 PacBio Sequel -1 分子リアルタイムDNAシーケンサーの最新動向……………	83
The latest developments of the Single-Molecule Real-Time DNA Sequencer, PacBio Sequel System	
大崎 研	
【短報】 サンガーシーケンスとフラグメント解析のための先端技術……………	93
SeqStudio Genetic Analyzer	
松村 直人	
ISO/IEC17025 (試験所認定) とは 町田 幸雄……………	99
DNA鑑定学会の概要……………	105
DNA鑑定提供までのジョブフローと規則……………	111
特定非営利活動法人 DNA鑑定学会 定款……………	133